

あいちオレンジタウン構想の推進について

1 事業概要

認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、保健・医療・福祉の専門機関が集積するあいち健康の森とその周辺地域が一体となり、地域づくりと研究開発の両面から認知症対策を推進するとともに、その取組を全県に波及していく。

2 平成30年度の事業内容

(1) 地域づくり推進費

(既存の社会資源の機能強化)

ア 認知症地域医療研修事業

地域の医療、介護の連携体制を構築するため、医療・介護連携の要となる認知症サポート医の活動実態の調査や、地域のネットワークづくりの中核となる医療従事者向け研修を実施する。

イ 認知症介護指導者研修事業

認知症介護指導者の養成研修及びフォローアップ研修を実施する。

ウ 認知症専門職家族支援研修事業

認知症の人の家族介護者の精神的負担を軽減するため、地域の医療・介護専門職を対象に「家族介護者に寄り添う支援方法」を学ぶ研修会を開催する。

エ 若年性認知症総合支援センターの運営

若年性認知症の人や家族を支援していくため若年性認知症コーディネーターを配置し、個別相談、自立支援ネットワーク会議や研修会などを実施する。

(新たな社会資源（企業・大学）の巻き込み)

オ 認知症の人にやさしい企業サポーター養成事業

認知症の人と接する機会の多い職場（小売業、金融機関、公共交通機関）で働く人向けの認知症対応プログラムを開発する。

カ 認知症パートナー宣言推進事業

県とともに「認知症に理解の深いまちづくり」のパートナーとなることを宣言する企業・大学を募り、まちづくりの機運を高めるためのイベントを開催する。

(社会資源の有機的連携)

キ 地域住民の認知症理解促進事業

「認知症カフェ」の設置を推進するため、認知症カフェサミットを開催するとともに、運営マニュアル等を作成する。

ク 認知症に理解の深いまちづくりモデル事業

あいちオレンジタウン構想の取組を早期に全県へ波及するため、先進的なモデル事業を実施する市町村を募り、事業実施する。

(2) 研究開発推進費

(国立長寿医療研究センターを中核とした産学官連携による共同研究等の推進)

ア 認知症対策研究・支援事業

あいち健康プラザ内に国立長寿医療研究センターと認知症予防の共同研究を行うための「連携ラボ」を設置する。また、国立長寿医療研究センターの専門性の高い医学的助言を得て、市町村の認知症に係る人材育成を支援する。

イ 認知症共同研究推進事業

国立長寿医療研究センターの認知症予防とあいち健康プラザの生活習慣病予防のノウハウを活かし、新たな認知症予防プログラムを開発する。

(3) 推進調査費

あいちオレンジタウン構想推進の中核的施設と位置付ける国立長寿医療研究センターの病床機能強化に必要となる病棟の建替計画を後押しするための調査を実施する。

(4) 認知症疾患医療センター費

認知症疾患医療センターにおいて、認知症疾患の鑑別診断、初期対応、急性期対応、専門医療相談、研修会などを実施する。

(5) 推進事務費

あいちオレンジ構想に掲げる取組の推進、進捗管理を行う「あいちオレンジタウン構想推進会議」を開催する。

○あいちオレンジタウン構想 取組の全体スケジュール

項目	アクションプラン				平成30年度の事業内容等	
	H29	H30	H31	H32		
地域しへこ	I 既存の社会資源の機能強化	① 医療資源・介護資源の機能強化				I 既存の社会資源の機能強化 ①ア【認知症地域医療研修事業】 ・医療従事者向け研修等の実施 ・認知症サポート医の活動実態やニーズを調査 ・地域における連携体制の構築 ①ア【認知症疾患医療センター運営事業(国1/2補助)】 ・認知症に関する専門医療相談、地域包括支援センターとの連絡調整 ・認知症疾患医療連携協議会の開催等 ①イ【認知症介護指導者研修費】 ・認知症介護指導者の養成研修及びフォローアップ研修の実施 ①ウ【あいちオレンジタウン構想推進調査費】(債務負担行為分) ・NCGGの病床機能等の見直し検討のための調査を委託 ②【認知症専門職家族支援研修事業】 ・介護支援専門員等の専門職に対する研修会の実施 ③【若年性認知症総合支援センター運営事業(国1/2補助)】 ・若年性認知症支援コーディネーターを配置 ・理解促進のための研修や意見交換会の開催等
		ア 認知症サポーター医、かかりつけ医、認知症疾患医療センター、地域包括支援センター等の連携体制構築【県・医師会・NCGG】 調整 → 検討委員会立ち上げ実態調査(全県) → 連携対策構築 → 継続実施				
		イ 認知症介護指導者の活用による事業所の認知症対応力向上【大府センター・大府市・東浦町・県】 調査・実態把握 → 研修会・啓発活動の実施 → 個別相談等の実施				
	ウ NCGGの病床機能の強化【NCGG】 認知症リハビリテーション機能の強化など病床機能等の見直しを含めた建替えを検討					
II 新たな社会資源(企業・大学)の巻き込み	② 医療・介護専門職の家族介護者支援力向上【認知症の人と家族の会・県】 調整 → 家族介護者支援普及のための研修会開催 → 継続実施				II 新たな社会資源(企業・大学)の巻き込み ①【認知症の人にやさしい企業サポーター養成事業】 ・小売業、金融機関、公共交通機関で働く人向けの認知症対応プログラムの開発 ②【認知症パートナー宣言推進事業】 ・県内の大学、企業がパートナーとなることを県とともに宣言 ・宣言企業・大学が一堂に会するイベントを開催	
	③ 若年性認知症の人への早期相談支援体制づくり【大府センター・NCGG・県】 診断(NCGG)から支援(大府センター)へのつなぎの連携開始 → 他の疾患医療センターへ波及 → 事例の積上げ・就労支援モデル等開発					
III 社会資源の有機的連携	① 認知症の人にやさしい企業サポーターの養成【県・NCGG・企業等】 参画企業開拓 → 認知症本人及び企業への実態調査 認知症対応プログラム開発 → 対応プログラムの実証(大府市・東浦町・その他実証エリア) → 検証・全県へ波及				III 社会資源の有機的連携 【地域住民の認知症理解促進事業】 ・「認知症カフェサミット」の開催 ・「運営者マニュアル」及び「利用者案内」の作成 【認知症に理解の深いまちづくりモデル事業】 ・先進的な取組となるモデル事業を市町村へ委託(10市町村)	
	② 認知症パートナー宣言の創設【県・企業・大学】 参画企業開拓 → 県・宣言企業・大学による立ち上げイベントの実施 → 継続実施					
研究開発等	認知症カフェを中核とした有機的連携の実証 実態把握【県・家族の会】 → カフェサミット開催 実証エリア設定・立ち上げ支援 → 市民・専門職コラボ型カフェ実証【県・市町村】 → 検証・全県へ波及				IV NCGGを中核とした産学官連携による共同研究等の推進 ①ア【認知症対策研究・支援事業】 ・認知症共同研究推進事業(連携ラボ・長寿研分) ・認知症予防プログラムの普及(コグニサイズ) ・初期集中支援チーム、地域支援推進員の活動強化 ・徘徊見守りネットワーク整備等の実施 【認知症共同研究推進事業】(連携ラボ・プラザ分) ・新たな認知症予防プログラムの開発等に関する共同研究の実施 ・認知症予防リーダーの育成に向けた研究 (その他)【あいちオレンジタウン構想推進会議】 ・アクションプランの取組の推進、進捗管理	
	① 認知症予防の共同研究の実施 ア NCGGとプラザの連携ラボによる認知症予防プログラムの開発等【NCGG・プラザ・県】 開設準備 → 連携ラボ開設・予防プログラム開発 予防分野での企業等との共同研究の検討 → 認知症予防リーダー育成 → 検証・全県へ波及 イ シンガポール国立大学との研究交流の推進【県・NCGG・名古屋大学】 ② NCGGの病院機能の拡大【NCGG・県・企業等】 ・研究テーマ(食品・住宅・IoTなど)の検討・共同研究の推進 ・企業等との共同研究のための実証機能の実装を推進 ・国際的な医療協力を資するとともに、医療ツーリズムの可能性を検討					

(注) NCGG: 国立長寿医療研究センター

大府センター: 認知症介護研究・研修大府センター

プラザ: あいち健康プラザ